

# 和の光



宝塚市立西谷中学校

## ■第77回卒業証書授与式を開催しました

3月14日、春の温かさを感じる中、第77回卒業証書授与式が開催されました。在校生と保護者、教職員からの祝福を受けて、9名の生徒が西谷中から巣立っていきました。これからの進学先はみな異なりますが、未来に向けて大きく羽ばたいてくれることを心から祈っています。



園・小・中学校の皆で花道をつくりました



担任の高橋先生と9名の卒業生

## <式 辞>

穏やかな日差しと心地よい春風が頬をくすぐり、ようやくふる里西谷の地にも、生命が躍動する春の到来を感じる季節となりました。今日のよき日に、宝塚市立西谷中学校第77回卒業証書授与式を挙げていくことを大変嬉しく思います。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さん一人ひとりに卒業証書を授与いたしました。皆さんは小・中学校9年間の義務教育をここにいる仲間と過ごし、楽しさや喜びを共有し、時には困難なことや投げ出されたいことも力を合わせて乗り越えてきました。その証が「卒業証書」です。今一度、手にした卒業証書の重みを感じて欲しいです。

さて、皆さんにとって、西谷中学校での3年間はどのような学校生活だったでしょうか。人生の中でも、中学校で過ごす3年間は心と身体が飛躍的に成長するときであり、多くのことを吸収できる大切な時期だと言われています。皆さんは、小学校の時に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休校を経験し、その後も繰り返される感染拡大のため、中学校のスタートを不安の中で過ごした人も多かったと思います。そして、感染対策に気を配りながらの三年間で、授業や行事で、今まで普通にできていたことができなくなり、皆さんの胸中を思うと大変胸が痛みます。私は、みなさんと一緒に過ごしたのはわずか1年間でしたが、このような厳しい状況においても、物事を常に前向きにとらえて前進するみなさんと過ごす中でたくさんの思い出ができました。ここで、少し振り返ってみたいと思います。

5月、沖縄への修学旅行は大変思い出深いものになりました。初めて飛行機で沖縄に行けること、中学校生活最初で最後となる宿泊行事でもあり、皆さんの心は何日も前からワクワクしていたことと思います。初日は、台風の影響で海は白波を立てていました。そのため楽しみにしていたマリンスポーツは中止になりました。「え、何でまた」と、残念な気持ちもあったでしょう。でも、そんなことは表に出さず、みんなで天候の回復を祈りました。その思いが通じたのか、わずかな時間ですが、天候が落ち着き砂浜で過ごすことができました。自分たちの置かれた現状をしっかりと受け止め、仲間と共にその場を楽しむみなさんの姿を目にして、心が救われる思いでした。平和祈念公園では、全校生で折った千羽鶴を奉納し、世界で起きている紛争や戦争が一日も早くなくなることを祈りました。そして、最終日の班別行動、仲間と相談しながら、国際通りでお土産を買ったり、食事をしたりする姿を見ていると、みなさんの絆の深さを感じ、これからの学校生活が楽しみになりました。

6月、西谷ふれあい運動会では、最高学年として、年下の園児や小学生をリードし、全員の力を合わせて躍動感に満ちた演技をたくさん披露してくれました。市内で一番小さな学校ですが、どの学校にも負けることがない素晴らしい運動会になりました。

10月、文化発表会では、自分たちから「書道パフォーマンスを是非やらせて欲しい」という声があがりました。そのことを知った私はとても嬉しかったです。MRS GREEN APPLEの曲「僕のこと」に合わせて、9人が心をつなげて、感動的なパフォーマンスを披露しました。みなさんの姿を見た後輩には、自分自身に誇りを持って生きる大切さ、困難なことに立ち向かうために必要なものは「勇気」と「希望であり、どのような日々を過ごしてきたとしても、それを受け止めて一歩一歩進んで行くことの大切さが伝わったと思います。また、書道パフォーマンスが西谷中の良き伝統として受け継がれていくことと思います。

12月、いよいよ中学校卒業後の進路を決める時期になりました。どの学校へ進学するのかを決める中で、自分の思いと現実の違いから、悩んだり、時には落ち込んだりした時もあったと思い

ます。それでも皆さんの周りには志を同じにする仲間、担任の先生をはじめとするたくさんの先生方、そして何よりも皆さんを温かく見守り支え続けてくれた家族がいたことを忘れないでください。

さて、卒業生の皆さんに、西谷中学校長として、最後のお話をします。皆さんは「雨だれ石をうがつ」という諺を聞いたことがありますか。「雨だれ」というのは屋根や軒先からポタポタと落ちる雨のしずくのことです。また、「うがつ」とは穴を開けるとか、突き抜けるという意味で、「石をうがつ」とは「石に穴を開ける」という意味になります。つまり、屋根から落ちる雨だれのような小さな「しずく」でも、時間をかけて同じところに落ち続けると、硬い石に穴を開けてしまうことがあるということです。このことから、小さな力でも根気強く努力すれば、いつかはその結果として大きな成果が得られるということを表した諺になります。石に穴を開けることは、簡単なことではありません。強くたたけば、石が割れてしまいます。ですから、長い時間をかけてじっくりと同じことをひたすらやり続けることが、硬い石に穴を開けるという、一見できそうにもないことを実現することに繋がるということです。

今、中学校を巣立とうとしている皆さんには、これから目指す自分自身の姿があると思います。その「なりたい自分」になるためには、どのような努力が必要なのでしょう。その必要な努力をこの雨だれのように地道に打ち続けてください。焦りすぎると石が割れてしまいます。時間をかけてじっくりと取り組んで欲しいと思います。「石をうがつ」という結果は、はじめから期待できるものではありません。結果は後からついてくるものです。したがって、地道にこつと毎日続けることに価値を感じて、黙々と取り組むことが大切なのです。

皆さんは、今日をもって義務教育を終えます。義務教育を終えるということは、社会から与えられ保護される立場から、社会を創り上げる形成者としての立場に立つことです。高校へ進学し、勉強するのは、社会の一員として自分の能力を一層磨くために学んでいくのだという意識を持ってください。これが、義務教育を終えて、中学校を卒業する意味なのです。

自分が自立した大人の仲間入りをするのだという気持ちを持つと同時に「雨だれ石をうがつ」ように地道にこつこつと努力をすることで、これからの人生を自分の力で切り拓いて欲しいと思います。しかし、あまり気負いすぎないでください。困った時には、一度立ち止まり、周りの仲間や家族、西谷中の先生方、そして私に相談をしてください。皆さんのことは、いつまでも応援しています。

次に、保護者の皆様へ一言、お祝いを申し上げます。お子様のご卒業、誠にありがとうございます。今から十五年前、子どもたちは、ご両親から一つの命を授けられました。その命は、今、頼もしく燦然と輝きをはなとうとしています。お子様の晴れ姿に感慨もひとしおのことと思います。本日を人生の節目として、今後とも立派に自立され、個性豊かな人間として成長されますよう、心からお祈り申し上げます。また、三年間、西谷中学校の教職員一丸となって、子どもたちの成長を見守りつつ、精一杯努力したつもりではありますが、至らない点もあったと思います。それにも関わらず、私たちにお寄せくださいましたご理解とご協力に対して厚く御礼申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。皆さんと過ごしたこの1年間は、私の人生においてかけがえのないものであり、みなさんと出会えたことを誇りに思います。ふる里西谷で学んだことを誇りに思い、この素敵な仲間たちと過ごした喜びを胸に刻んで、これからの人生を歩いていってください。名残はつきませんが、以上を、巣立っていく皆さんへの言葉といたします。卒業おめでとう。しっかり前を向いて、胸を張り、明日に向かって進んでください。

令和6年(2024年)3月14日  
宝塚市立西谷中学校長 筒井 啓介



在校生からのメッセージ



中学校生活最後の学活